

令和5年度 自己評価報告書

令和6年3月
岐阜県立下呂看護専門学校

1 本校の基本理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う、専門職業人を育成します。

2 令和5年度組織（所属）目標及び実績

1) 職員間の学びあいによる：教育実践能力の向上

- ①教員の研修参加：目標達成度 100%
- ②伝達講習会の実施：目標達成度 100%
- ③授業参観の実施（2回/人）及び他教員の授業参観（2回/人）：目標達成度 100%
- ④授業研究2題：目標達成度 100%
- ⑤教員ペア制の実施による教員支援の充実：目標達成度 38%

2) 在校生の学修継続支援及び入学生の確保

- ①担任・副担任による個別面談（定期・適時）
- ②担当教員制による国家試験の学習支援（3年生30人を教員8人で担当）
- ③スクールカウンセラー利用学生：7人/年
- ④学生意見箱の意見対応：3件
- ⑤お悩み相談箱（男子・女子更衣室）の意見：0件
- ⑥ストレスチェック：10月、1月
- ⑦卒業生と語る会：10月
- ⑧学生生活実態調査：12月
- ⑨実習中の睡眠時間調査：1月～2月
- ⑩高等学校訪問34校
- ⑪進学ガイダンス11回
- ⑫オープンキャンパス（8月）：参加者47人
- ⑬ホームページの適時更新
- ⑭受験生アンケート実施（10月、1月）

3) 業務マネジメントとワークライフバランスの推進

- ①所属共有フォルダの点検及び整理
- ②職員会議等での時間外削減及び年次休暇取得推進の推奨
 - ・年次休暇 一人平均12.7日（目標到達度105.8%）
 - ・夏季休暇 全員4日取得（目標到達度100%）
- ③時間外勤務命令時間を意識した業務マネジメント
 - ・時間外命令時間の遵守率89.6%（目標達成度112%）
 - ・一人平均時間外勤務時間数（対前年度比約5割増）
- ④業務改善委員会（提案6件、改善5件）

3 評価項目の達成および取組状況

1) 学校経営

資料 1～11

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表しているか。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。 	4.5

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・自死事案に係る調査報告書の公表後、調査報告書について教職員で共有し、自死の再発防止に向けた解決策について取り組み中である。
- ・教職員の意見を取り入れた組織目標を設定し、目標達成に向けた取り組みを実行した。
- ・学校運営上の課題に対し、適宜、運営会議を開催するとともに、職員会議等において教職員と情報共有し課題解決に努めた。
- ・学校運営評価（10月・3月）を実施し、職員会議で共有後、ホームページに掲載した。

【課題】

- ・自死事案に係る再発防止に向けた取り組みを実行する。
- ・組織目標、委員会・係活動目標等の達成に向け、計画に基づいた取り組みを行う。

【対策】

- ・自死事案に係る再発防止の具体的な取り組み内容を次年度の組織目標に盛り込み、組織的な取り組みを継続する。
- ・組織目標、委員会・係活動の取り組み状況について定期的な評価を行い、必要時、計画の追加・修正を行う。
- ・学校運営上の課題等について教職員で共有し、課題解決に向け迅速に対応する。

2) 学科運営

資料 12～17

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に持つべき資質をディプロマポリシー、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 	4.1

<ul style="list-style-type: none"> ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。 	
---	--

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・カリキュラムの科目評価会議、カリキュラム検討委員会を行い、ディプロマポリシーとの相関やカリキュラム運用上の課題について検討した。
- ・卒業時アンケート、卒業生アンケートを参考にカリキュラム評価を実施し、次年度の教育に反映した。
- ・卒業時の技術経験到達度を評価し、経験の少ない技術項目の卒業前技術演習を実施した。
- ・学生への時間割の公表は概ね1カ月前に行った。
- ・未修得科目のある学生の単位修得に向け、外部講師や実習施設との調整を行った。
- ・各実習の目標・方法、評価基準、患者への倫理的配慮等について、実習要綱を用いて学生にわかりやすく説明した。
- ・実習目標の達成にむけ教員間の調整及び実習施設への協力依頼を行い、指導体制及び実習環境を整備した。
- ・主たる実習施設の学生指導委員会に教員が参加し、実習指導者と課題等の検討を行った。
- ・学生の実習における学習内容を担保したうえで、実習事前学習及び実習記録の見直しを行っている。
- ・学生による授業評価をL o G o フォーム入力に変更したことで回答方法は簡易になったが、回答率が低下した。

【課題】

- ・カリキュラムの課題分析を行い、効果的なカリキュラム運用について検討する。
- ・学生による授業評価の回答率を上げ、授業の改善に活かす。
- ・実習指導体制及び実習環境を整備する。
- ・実習の事前学習内容及び方法の見直し、並びに実習記録の削減を行い、学生負担の軽減に向け検討する。

【対策】

- ・カリキュラム委員会を中心にカリキュラム評価を行う。
- ・授業評価方法の見直しを行い、学生に協力を依頼する。
- ・実習施設との連携を図り、実習指導体制及び実習環境を整備する。
- ・実習委員会を中心に実習の事前学習内容及び実習記録の見直しを行う。

3) 入学・卒業対策

資料 18～19

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国試の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生への支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。 	4.3

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・入学生確保対策として、高等学校訪問、進学ガイダンス参加、オープンキャンパス、ホームページ更新などを行ったが、志願者数が減少し、入学定員に至らなかった。
- ・卒業に向けた支援を行い、3年生全員が卒業した。
- ・国家試験100%合格を目指し、教員全員で国家試験対策を行った結果、国家試験合格率は93.3%だった。 *全国の国家試験合格率87・8%
- ・3月に卒業生交流会を実施し、7名の卒業生が参加し交流した。
- ・県内就職を推奨し、県内就職率は93%だった。
- ・退学者は1名(休学→退学)だった。

【課題】

- ・入学生を確保する。
- ・国家試験受験者が全員合格する。

【対策】

- ・学生確保の取り組みについて教職員で定期的に評価し、新たな取り組みを実行する。
- ・国家試験の全員合格に向け、計画的・組織的な学習支援を行う。

4) 学生生活への支援

資料 20～24

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。 	3.7

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・就職支援の充実を図るため、2・3年生に就職支援アンケートを実施し、就職、進学について助言した。
- ・2年生対象に外部講師による就職支援ガイダンスを実施し、模擬面談等を実施した。
- ・卒業生7名の来校による「卒業生と語る会」を開催し、1・2年生(34名)が参加した。
- ・学生記名による学生生活実態調査(学生生活全般、ハラスメント、睡眠)を実施し、学生の生活状況を把握した。
- ・年間をとおし授業料減免・奨学金制度の情報提供や手続きの説明等を行い、学生の経済的支援に努めた。
- ・定期健康診断や学生の体調不良時に学校医及びスクールカウンセラーと連携し、学生の健康面の支援を行った。
- ・学生が相談しやすくなるよう「こころの相談室」の名称を「スクールカウンセラーの日」と改め、7名/年が利用した。
- ・「スクールカウンセラーの日」は予約制から待機性に変更した。
- ・スクールカウンセラーによる学生のストレスチェック(2回/年)を実施した。
- ・4年ぶりに球技大会が開催できた。
- ・3学年の縦割り交流活動を行った。

【課題】

- ・学生生活実態調査、ストレスチェックを行い、学生の生活・学習状況、メンタルヘルス状況を把握し支援する。
- ・必要時、学校医やスクールカウンセラーと連携し、専門的な支援につなげる。

【対策】

- ・担任・副担任による個別面談を定期的に行い、学業や進路について支援する。
- ・学生情報の記録化と教職員による情報共有を行う。
- ・学生生活実態調査（2回／年）、スクールカウンセラーによるストレスチェック（3回／年）実施する。

5) 教職員の育成

資料 25～27

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。 ・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。 ・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。 	3.9

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・職場の課題について定期的に職場研修を行った。
- ・教員全員が目的に応じた研修に参加し、研修後に伝達講習会を行った。
- ・新カリキュラム（地域・在宅看護論、成人・老年看護学）の新規実習場所について3名の教員が臨地研修に参加した。
- ・授業参観と授業研究が計画どおり行えた。
- ・取り組み2年目となる教員ペア制に対する教員の肯定的意見は38%と導入年度より低下した。ペアの構成やペア制による取り組み範囲等が課題となった。

【課題】

- ・伝達講習会、授業参観、授業研究を継続する。
- ・教員の同僚性を高める教員ペア制の見直しを行う。

【対策】

- ・伝達講習会（全教員最低1回）、授業研究（2題／年）・授業参観（2回／人）を行う。
- ・教員ペアを関連する担当領域同士で構成し、講義を中心に支援しあい学びを深める。

6) 管理運営・財政

資料 28～29

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。 	4.3

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・予算策定、予算執行は計画的に行った。
- ・学生に対して、学生便覧や実習要綱を用いて、ハラスメントや個人情報保護等について説明した。
- ・職員に対して、危機管理に関する職場研修を実施した。
- ・学生・職員のヒヤリ・ハット事例を共有し、再発防止に取り組んだ。

【課題】

・危機管理（人権・情報管理、災害対策、感染対策等）に対する正しい知識の獲得と意識向上を図る。

【対策】

- ・学生に対して、危機管理に関する研修会等を行う。
- ・職員に対して、定期的な職場研修を行う。

7) 施設設備

資料 30～32

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。 	3.9

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・学生フリールーム、多目的ルームへの用途替え、校舎トイレの様式化、階段手すりの設置など、予定工事が完了した。
- ・校舎門扉の取替を行った。
- ・図書・教材は年度計画に基づき整備している。
- ・ICT機器の活用頻度が増しているが、不具合が多く活用できない場合がある。

【課題】

- ・ICT機器の不具合により、活用できない場合がある。
- ・ICT機器の専門家が不在であり、教職員の負担が大きい。

【対策】

- ・ICT機器の定期的なメンテナンスが必要である。
- ・県立3校同様の状況であることから、県及び3校で連携し解決する。

8) 広報・社会貢献・地域活動

資料 33

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。 	3.8

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・ホームページの更新を適宜行った。
- ・地元ケーブルテレビの撮影に協力し、学校の存在をアピールした。
- ・地域の清掃活動、講演会支援等のボランティア活動を行った。
- ・下呂温泉病院の職員と共に教員が中学校に出向き、看護職や看護学校について紹介した。

【課題】

- ・地域や実習施設と連携した学校のアピールや地域ボランティア活動を継続する。

【対策】

- ・ボランティア活動について地域、実習施設等に案内する。
- ・下呂市内小中学校、高等学校等への出前授業を実施する。

9) 独自項目（寄宿舎）

資料 34

評価項目	評価点
・寄宿舎の施設・設備は安全・安心が確保され、学業に専念できる生活環境であるか。	4.0

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・寮生は合計 35 名（1 年生 7 名、2 年生 12 名、3 年生 16 名）であり、入寮希望者が全員入寮できた。
- ・新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられ、感染症対策を緩和したが、寮内での感染拡大はなかった。
- ・7 月に寄宿舎の防災訓練を実施した。
- ・1 月に寄宿舎入寮生調査を実施した。弁当や生活上のルールの見直しにより、昨年度と比較し、「満足・やや満足」の回答が増加した。
- ・令和 6 年度入寮生数（24 名）の減少に伴い、居室を 1～2 階に集約するよう決定した。

【課題】

- ・入寮生数の減少に伴い、寄宿舎運営方法等の見直しが必要である。

【対策】

- ・寄宿舎の現状に合わせた運営方法について検討する。